

1. 湖産アユ魚病対策研究費

1) 湖産アユのピブリオ病

津村祐司

[目的] 湖中におけるアユの斃死原因菌であるピブリオ菌の分布と保菌状態から斃死に至る急激な感染をとらまえ、アユの斃死時期の予察と対策を打ち立てる。

[方法]

(1) 斃死量の推定

①湖上調査

琵琶湖丸で航行する際、片側2 km両舷4 kmで斃死魚を目視により計数した。そして数地点で細菌検査用試料を採集するとともに斃死魚の新旧の割合を出し、各ポイントの当日の斃死尾数の算出の基礎とした。湖上斃死量は、航行距離2 kmと観察幅20 mの積を調査面積とし、各ポイントの当日の斃死尾数と水域面積から推定した。

②湖岸調査

湖岸9ポイントについて100 m～200 m歩き、斃死魚を計数及び採集し、湖上調査と同様に斃死量を推定した。

(2) 斃死原因の究明

平成元年、2年の事例を踏まえ、斃死魚からの細菌検査を行った。

[結果]

(1) 斃死量の推定

①湖上調査

斃死魚は7月22日に初めて観察されてから急激に増加し3日後の25日にはピークに達しその後終息に向かった。斃死魚が見られた水域は、沖島・竹生島を結んだ線以東であった。湖中での推定総斃死量は、約73万尾(2.2 t)であった。

②湖岸調査

湖岸での斃死魚も7月25日に初めて観察されたが、急激に減少していった。湖岸での推定総斃死量は、約27万尾(0.8 t)であった。

①②の調査から今回の推定総斃死量は、7月22日から8月3日までの12日間で、約100万尾(3.0 t)と、推定した。

(2) 斃死原因の究明

細菌検査は培養温度25℃で肝臓からHI寒天培地を用いて行った。総検査尾数78尾中70尾(89.7%)からピブリオ アンギララム(A)が分離された。このことから湖中アユの斃死原因は、ピブリオ アンギララム(A)の感染症によるものと思われる。